

事務局だより

平成30年12月17日
第 3 号
岩手県学校保健会
養護教諭部会事務局発行

第42回岩手県養護教諭研究大会(報告)

11月22日(木)、いわて県民情報交流センター(アイーナ)を会場に、第42回岩手県養護教諭研究大会を開催いたしました。会員と大会関係者併せて、約500名の参加となりました。

本大会は、「時代のニーズに応えた養護教諭の役割と専門性を深める」というテーマのもと、午前は、東北福祉大学教育学部教授 上條晴夫先生に「養護教諭は、もっと前に出て話そう～専門職としての話し方を振り返る～」と題してご講演をいただきました。約2時間の講演は、ワークを交えながら賑やかに、また、和やかな雰囲気で行われました。午後は、『「チームとしての学校」の力を高める養護教諭の役割とは』をテーマにシンポジウムを行いました。小学校、中学校、高等学校、支援学校の各学校から、4名の先生方にシンポジストとして発表いただきました。コーディネーターの入駒一美先生からは、養護教諭としての資質の向上についてのお話もありました。



本大会の開催にあたり、たくさんの方々のご参加と運営へのご協力をいただき、心より感謝申し上げます。



祝 谷村 純子 先生

学校保健功労者表彰受賞 おめでとうございます

この度、本部会より推薦しておりました、岩手町立一方井中学校 養護教諭 谷村純子先生が、学校保健功労者表彰を受賞されることになりました。

12月26日(水)に開催される「第54回岩手県学校健康教育研究大会」の席上で表彰されます。

☆本部会より、祝花をお贈りいたします。

平成30年11月25日(木)・26日(金) 鹿児島県鹿児島市 鹿児島市民文化ホール

1 記念講演「発育期におけるスポーツの意義と課題」

講師 日本臨床スポーツ医学会 理事長 川原 貴氏

発育期におけるスポーツの意義として、発育発達の促進、体力の向上、心身の健康維持増進等の他、生涯にわたる運動習慣づくり等が挙げられた。超高齢化社会の進行に伴い、課題となっている健康寿命の延伸には、病気の予防としっかりとした骨・筋肉が重要であり、そのためには小児期からの運動による丈夫な運動器の獲得が大切であることが話された。一方、課題として運動のやり過ぎ、軟骨の障害や無月経、熱中症等のスポーツ外傷・障害等があり、それらの予防と、発生時には的確に対応する必要があると話されていた。

2 研究協議

(1) 第5課題「歯・口の健康づくり」

<研究発表者> 鹿児島県立鹿児島養護学校 教諭 外園耕司氏, 福岡県桂川町立桂川東小学校 養護教諭 穴井由貴氏

埼玉県羽生市立東中学校 養護教諭 皆川麻子氏, 教諭 渡邊 マユコ氏

<講師> 福岡県教育庁教育振興部副理事 兼 体育スポーツ健康課超 寺崎 雅巳氏

<指導助言者> 愛知県立瀬戸高等学校 教頭 丸山 洋生氏

養護学校の発表では、年2回の歯科検診、口腔衛生指導、講話、希望者へのフッ化物洗口の実施の他、家庭への情報発信等による保護者の意識啓発を図り、協力を得ながら歯科保健活動を進めていることや、歯科検診結果を基にした学校歯科医による表彰が児童生徒の口腔ケアへの動機づけ・意欲づけにつながっていることが紹介され、それらの取り組みが、う歯保有者減少等の成果を上げているとのことだった。

小学校の発表では、健康診断や歯科衛生に関するアンケート結果から自校の課題を明らかにし、その課題解決を図るための実践が紹介された。学級活動や体育科の授業の他、うがい・咀嚼・歯みがきのオリジナルキャラクターにより児童の興味・関心を高めながら、口腔衛生・噛んで食べることの大切さを意識させていた。その他、正しい姿勢が生涯の歯・口の健康につながっているとして、学校全体で毎日継続的に体を支える筋肉(インナーマッスル)を鍛えるトレーニングに取り組んでいた。

昨年度、全日本学校歯科保健文部科学大臣賞を受賞した中学校は、生徒の実態に合わせたテーマで学級活動が行われ、歯科衛生士の協力を得ながら進めていた。その他、生徒保健委員会による歯科保健の活動や、歯科衛生士や養護教諭による個別指導、管理職による歯科保健講話、職員研修など、学校全体で歯科保健活動を展開し、今年度はDMF指数が0.54と大きな成果をあげているという発表であった。

(2) 第8課題「学校事故防止対策」

<研究発表者> 日本スポーツ振興センター学校安全部 安全支援課長 米山尚子氏

長野県教育委員会 スポーツ課学校体育係 指導主事 柳澤 誠氏, 滋賀県立彦根工業高等学校 養護教諭 山本愛子氏

<講師> 学校安全研究所 代表 戸田 芳雄氏

<指導助言者> 世田谷区教育委員会教育指導課 指導力向上サポート室 指導嘱託員 永山満義氏

JSCの方の発表では、学校事故防止を目的とした事業の紹介等があり、その中で給付データからわかる学校事故の傾向や、各校配付済のスポーツ事故防止ハンドブックやDVD等を活用して事故防止に役立ててほしいと話された。

長野県教育委員会では、学校関係職員スポーツ関係者等を対象とした様々な講習会を開催している他、頭頸部・顔面のけがに迅速・適切な対応ができるようフローチャート式の掲示物を作成し全県の体育施設に掲示するなど、事故の未然防止と事故対応への意識高揚を図る取り組みを行っているということが紹介された。

高等学校の発表では、保健室に来室する生徒の実態から、学校全体を巻き込んだ熱中症予防対策が必要であると感じ、展開された取り組みが紹介された。生徒保健委員会による各教室の室温測定の結果を「見える化」したことで生徒や教職員が教室環境に関心を持つようになり、注意喚起に繋がった。また、このことをきっかけに、熱中症予防対策に対し、教職員・管理職からの協力を得やすくなった他、外部講師による講演会や体育祭における暑さ対策(テントやミスト扇風機の設置、氷の配付等)が実施され、教室や体育館に扇風機が設置されるようになるなど、環境面においても様々な予防対策が行われるようになったことが話された。